

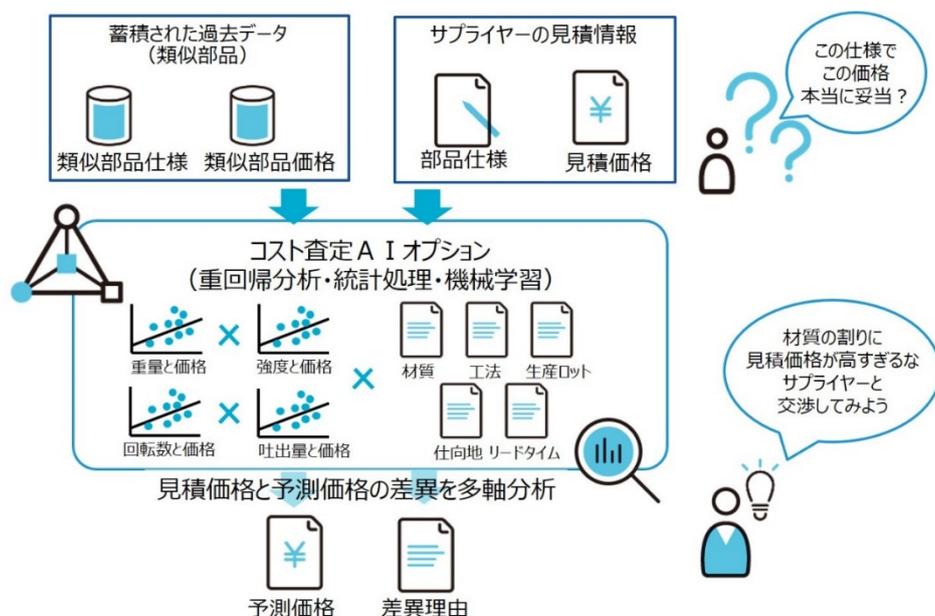
日本ユニシス

国内初！製造業の部品単価決定やサプライヤー選定をAIが支援

～ ベテランバイヤーが持つノウハウをAIが継承。購買／調達部門を支援する購買分析「eBuyerBrains®（イーバイヤーブレイン）」の新機能「コスト査定AIオプション」を販売開始～

日本ユニシスは、製造業の購買／調達業務を支援する購買分析「eBuyerBrains」に、AIを活用してコスト査定を行う新機能「コスト査定AIオプション」を追加し、本日から販売開始します。

「コスト査定AIオプション」は、部品単価決定やサプライヤー選定をAIが支援するもので、システム内に蓄積された過去の類似部品データをもとに予測価格を導くだけでなく、サプライヤーから取得した見積もりと予測価格を比較して、コスト削減要素を特定する機能です。AIが、ベテランバイヤーのノウハウを継承して、バイヤーごとのスキルの差を埋め、価格決定・サプライヤー選定のリードタイムを圧倒的に短縮し、購買／調達業務の質を向上させます。



【背景】

近年、製造業では、グローバル化による価格競争の激化、人手不足の深刻化などが問題になっています。特に購買／調達部門においては、価格競争に直結する購入部品について、品質を維持しながら、いかにコストを下げるかなどが重要になり、ベテランバイヤーが持つノウハウの継承が大きな課題となっています。

【コスト査定AIオプションの特徴】

1. 予測価格を自動で算出
部品スペックや使用情報など複数の項目を多軸で分析し、予測価格を算出します。
2. 予測価格とサプライヤーの見積もりとの差異を分析
サプライヤーから取得した見積もりの価格と、コスト査定AIオプションが算出した予測価格の差異の原因を分析します。
3. 予測モデルのチューニング
日々蓄積・更新されるデータをもとに、予測価格の精度を維持／向上を図るための各種設定機能を有し、予測モデルの陳腐化を防ぎます。

【eBuyerBrains について】

今まで購買実績データの「見える化」にとどまっていた分析ツールの範囲を超え、品目やサプライヤーにまつわる各種情報を一元的に格納し、品目のコスト査定、カテゴリ毎の原価低減ネタ探し、サプライヤーマネジメントなど、購買／調達部門が行うべき分析業務や意思決定業務を強力に支援するサービスです。

「コスト査定 AI オプション」の販売開始にあわせ、日本ユニシスが提供してきた「電子購買構築ツール eProT[®]」と「購買分析 eBuyerBrains」を統合し、業務全体をカバーする購買調達統合ソリューション「eBuyerBrains」シリーズとして提供していきます。同様にサプライヤー一斉調査 SaaS ソリューション「eSupplierStation[®]」の一部機能も「eBuyerBrains」シリーズに組み込みますが、現行の SaaS 版の「eSupplierStation」単体での提供も継続します。

【今後の展開】

今後も日本ユニシスは、画像処理技術などの AI 技術を活用した機能追加を行うことでさらに「eBuyerBrains」を進化させ、製造業の競争力強化を支援していきます。

以 上

※関連 URL :

「コスト査定 AI オプション」

<http://www.unisys.co.jp/solution/biz/srm/service/ebuyerbrains.html#ai>

購買調達統合ソリューション「eBuyerBrains」

<http://www.unisys.co.jp/solution/biz/srm/service/ebuyerbrains.html>

サプライヤー一斉調査 SaaS ソリューション「eSupplierStation」

<http://www.unisys.co.jp/solution/biz/srm/service/esupplierstation.html>

※「eBuyerBrains」、「SupplierStation」、「eProT」は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。